

病害虫発生予察情報予報第4号（8月の予報）

佐賀県

目次

1. 8月の病害虫	1
2. 気象概要	2
3. 予報の内容・根拠等について	2
4. 8月の予報	
普通作物（水稻）	3
果樹（カンキツ、ナシ、ブドウ、果樹全般）	16
茶	25
野菜（イチゴ、アスパラガス）	30
5. 病害虫診断状況	35
6. 全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫	36
7. 農薬の適正使用について	37

今月のトピックス

気温が高い8月は、トビイロウンカ等害虫が増殖しやすい時期です。また、イチゴのうどんこ病も多発生しています。圃場での発生状況を確認して、適期防除に努めましょう（トラップ等のデータは、農業技術防除センターのホームページを参照して下さい）。

1. 8月の病害虫（予報で対象とした病害虫の中から抜粋）



トビイロウンカによる水稻の坪枯れ



イチゴのうどんこ病



ナシヒメシンクイ（上：幼虫、下：成虫）



チャのクワシロカイガラムシ（雌成虫と雄繭）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

2. 気象概要

【3ヶ月予報 平成26年7月25日 福岡管区気象台発表】

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

各病害虫の「予報の根拠」として、上記の向こう1か月の気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

上記の気象予報（確率予報）の内容について、本文中では便宜上、「気温やや高」、「降水量並」と簡略的に表現しています。

8月の要素別確率(%)

要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30

【参考】

要素	平年値 (佐賀市)	平年差(比)の平年並の範囲 (九州北部地方)
8月の平均気温	27.8℃	-0.3℃ ~ +0.4℃
8月の降水量	196.9mm	65% ~ 110%

3. 予報の内容・根拠等について

病害虫の発生量（平年比）

○予報の発生量は平年（佐賀県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

○留意点として、平年値との比較であるため、平年値が低い病害虫は、「平年より多い」場合でも見かけの発生は多くないことがあります。一方、発生が毎年目立ち、平年値が高い病害虫は、「平年並」や「平年よりやや少ない」場合でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

予報の根拠

○予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

○それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

写真

○1ページ目には、予報で対象とした病害虫の写真を抜粋して掲載しています。

○3ページ目以降には、巡回調査時の各作物の生育状況の写真を掲載しています。

4. 8月の予報

普通作物

【概要】

作物名	病害虫名	発生量		病害虫防除の てびきの記載 ページ	備考
		平年比	前年比		
早期水稲 (上場地域)	紋枯病	並	やや多	144~146	
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	165~167 181~183	
山間早植え 水稲	穂いもち	やや多	多	137~143	平成26年7月7日 付病害虫対策資 料第7号参照
	紋枯病	やや多	多	144~146	
	トビイロウンカ	やや多	並	153~157	平成26年7月14 日病害虫対策資 料第8号参照
	コブノメイガ	並	並	162~164	
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	165~167 181~183	
普通期水稲	穂いもち	並	やや少	137~143	
	紋枯病	やや多	多	144~146	
	白葉枯病	並	並	143~144	
	もみ枯細菌病	並	並	147~149	
	トビイロウンカ	やや多	並	153~157	平成26年7月14 日病害虫対策資 料第8号参照
	コブノメイガ	並	並	162~164	
	フタオビコヤガ	並	並	169~170	
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	165~167 181~183	

【特記事項】

1. 近年、トビイロウンカが多発生傾向にあることから、必ず圃場における発生状況を確認した上で、適期に基幹防除を徹底する。さらに、薬剤は株元にむらなくかかるよう十分量を丁寧に散布する。
2. 葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の穂いもち防除を徹底する。なお、進展型病斑がみられる圃場では早急に防除を行う。
3. 農薬を使用する際は、蜜蜂や周辺環境へ影響がないよう、危害防止に努める。

水稲（早期、上場地域）

（巡回調査日：7月17日）

1. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）



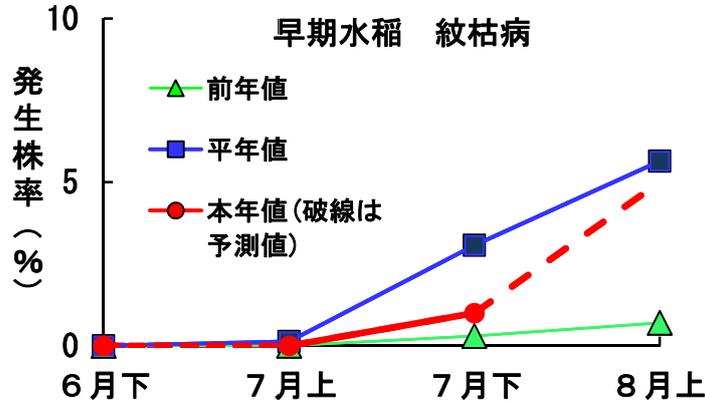
巡回調査時の生育状況

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は1.0%（平年3.1%、前年0.3%）であり、平年よりやや少なく前年並である。（-~±）
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。（±~+）（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病の発生状況は圃場によって異なるので、各圃場を見まわり、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに防除を行う。



2. 斑点米カメムシ類

水稲（早植え）の斑点米カメムシ類の項参照。

水稲（山間早植え）（巡回調査日：7月17日）



巡回調査時の生育状況

1. 穂いもち

1) 予報の内容

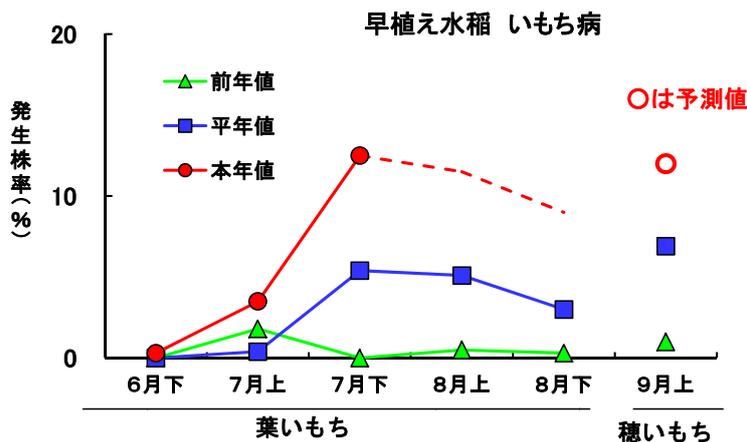
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、葉いもちの発生株率12.5%（平年5.4%、前年0%）であり、平年よりやや多く前年より多い。（±~+）
- (2) 巡回調査圃場以外でずり込みを起こすなど多発生している圃場がみられる。（±~+）
- (3) BLASTAMで、葉いもちの感染好適条件が6月27日~28日及び7月8日に複数地点で出現し、これまでの出現回数は平年よりやや多い（P. 11の表3、P. 12の図1）。（±~+）
- (4) 気象予報では、並発生の条件となっている。（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の穂いもち防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。



2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

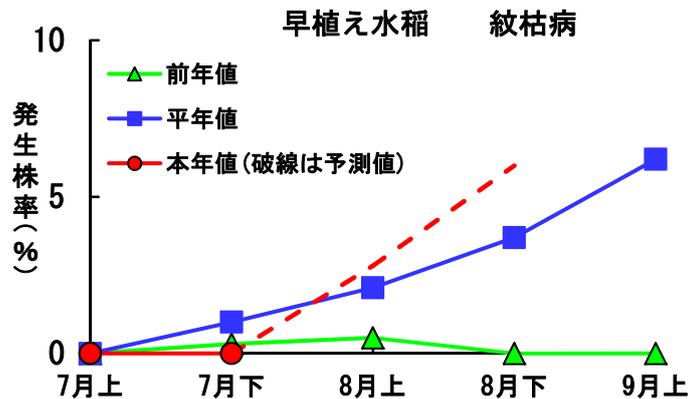
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生を認めていない（平年1.0%、前年0.3%）。〈±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病の発生が見られる圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合出穂10～20日前を目安とする）に防除を行う。



3. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) トビイロウンカの飛来は7月4日、7月14日を中心にみられ、飛来量は平年並である（P. 13の表4）。〈±〉

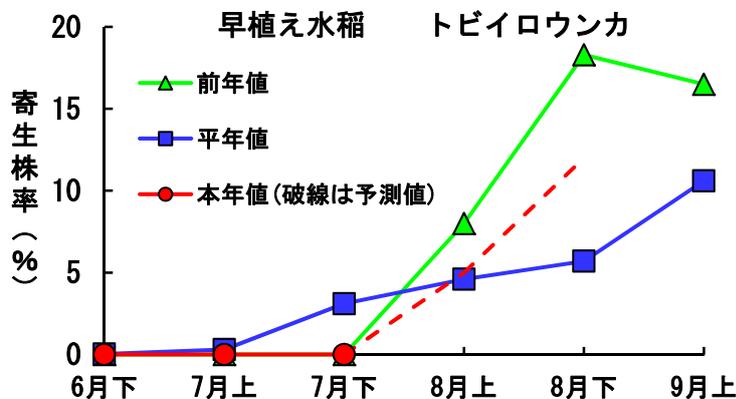
(2) 巡回調査では、寄生を認めていない（寄生株率：平年3.1%、前年0%）。〈±〉

(3) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生予想パターン図（P. 14の図3）を参考にして、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期（防除適期）に基幹防除を徹底する。

(2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。



4. コブノメイガ

1) 予報の内容

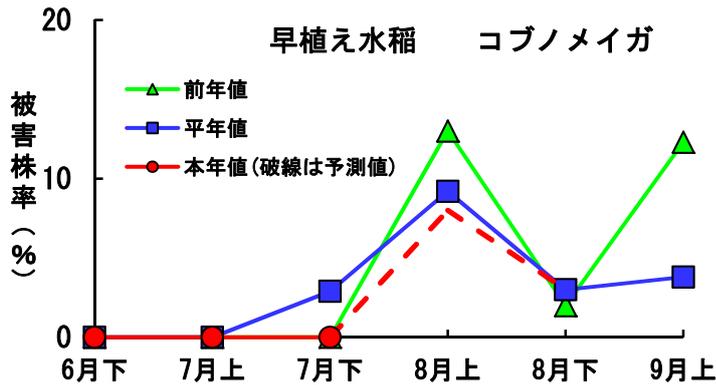
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) コブノメイガの飛来は6月22～24日、7月4～6日を中心にみられ、飛来量は平年よりやや少ない（P.13の表4）。〈－～±〉
- (2) 巡回調査では、被害葉を認めていない（平年2.9%、前年0%）。〈－～±〉
- (3) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～＋〉（気温やや高：±～＋）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予想パターン図（P.15の図4）を参考にして、必ず圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）に防除を実施する。



水稻（早期・早植え・普通期）

1. 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、

アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 水田隣接のイネ科植物での捕虫網によるすくい取り調査（7月17～24日）では、カメムシ類の発生は平年並である（表1）。〈±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～＋〉（気温やや高：±～＋）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地（畦畔、休耕田、空き地等）は斑点米カメムシ類の増殖・被害源となるので、除草を徹底する。なお、水稻の出穂直前に除草すると斑点米カメムシ類が水田内に移動することになるので、除草は水稻の出穂10日前までに行う。
- (2) カメムシ類の生息数は地域ごとに異なるので、すくい取り調査や見取り調査を行い、防除要否（穂揃い期～乳熟期に、ほ場内で20回すくい取りで5頭以上いる場合は防除を実施）を判断する。
- (3) 多発生時は穂揃い期とその7～10日後に防除を行う。少発生の場合は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に防除を行う。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(平成26年7月17~24日)

調査地点	場所	草種	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアカカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
小城市三日月町	道端	エノコログサ類	1	0	0	0	0	4	6	0	0
多久市南多久町	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	63	66	0
佐賀市東与賀町	道端	エノコログサ類	4	11	2	0	0	0	3	29	0
佐賀市西与賀町	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	1	8	0
佐賀市川副町	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	20	6	0
唐津市浜玉町	空き地	オヒシバ	1	0	2	0	0	0	0	0	1
唐津市鏡	道端	エノコログサ類 ・オヒシバ	1	0	1	0	0	0	77	75	0
玄海町有浦	空き地	エノコログサ類	1	17	0	0	0	0	2	3	0
鳥栖市三島町	道端	エノコログサ類	3	5	1	2	0	0	22	12	0
吉野ヶ里町箱川	道端	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	3	4	0
白石町福田	空き地	エノコログサ類	0	4	0	0	0	0	6	8	0
白石町福富	空き地	エノコログサ類	1	0	0	0	0	1	4	1	0
白石町牛屋	空き地	エノコログサ類	4	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿島市常広	空き地	エノコログサ類	0	1	0	0	0	2	20	4	0
嬉野市塩田町	空き地	エノコログサ類	1	1	4	0	0	0	13	0	0
嬉野市嬉野町	空き地	エノコログサ類	7	4	0	0	3	0	0	0	0
平均(本年)			1.5	2.7	0.6	0.1	0.2	0.4	15.0	13.5	0.06
前年			5.8	6.0	0.5	0.3	0.1	0.2	16.2	12.8	0.0
平年(過去10年の平均)			4.5	8.1	2.1	1.3	0.6	1.4	25.9	13.3	0.02

水稲(普通期水稲)

(巡回調査日: 7月17~24日)



巡回調査時の生育状況

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量: 平年並(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、葉いもちの発生株率0.4%(平年1.0%、前年0.5%)であり、平年及び前年並である。〈±〉
- (2)BLASTAMで、葉いもちの感染好適条件が7月8日に複数地点で出現し、これまでの出現回数は平年よりやや多い(P.11の表3、P.12の図2)。〈±~+〉
- (3)気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1)葉いもちの進展型病斑(写真1)がみられるほ場では早急に防除を行う。
- (2)葉いもちの発生がみられるほ場では、穂ばらみ期の穂いもち防除を徹底する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。

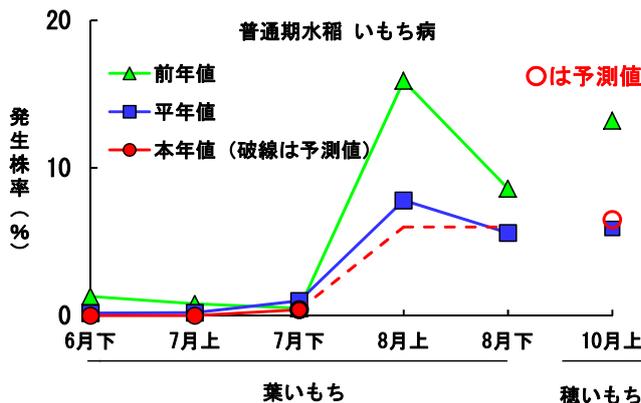


写真1 葉いもちの進展型病斑 円形ないし楕円形で、中央が灰白色、周縁が紫黒色となる。

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

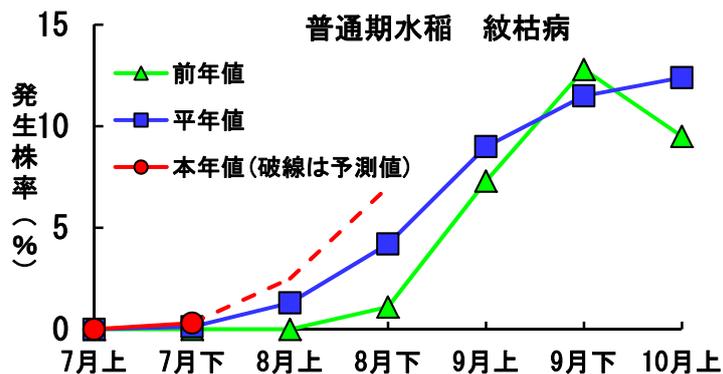
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生株率は0.3%（平年0.1%、前年0%）であり、平年及び前年並である。〈±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病が発生している圃場では、病斑が上位葉の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合出穂10～20日前を目安とする）に防除を行う。



3. 白葉枯病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生を認めていない（平年0.2%、前年0%）。〈±〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 台風等の強風雨後には多発生するので注意する。

4. もみ枯細菌病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 気象予報に留意し、開花期間中に降雨が予想される場合は、出穂前後3日の間にスターナ剤による防除を行う。

5. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

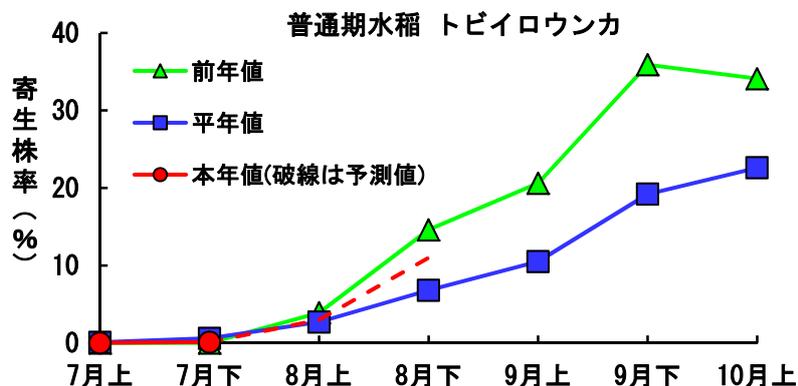
(1) トビイロウンカの飛来は7月4日、7月14日を中心にみられ、飛来量は平年並である（P.13の表4）。〈±〉

(2) 巡回調査では、寄生株率は0.1%（平年0.6%、前年0%）であり、平年及び前年並である。〈±〉

(3) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予想パターン図(P. 14の図3)を参考にして、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期(防除適期)に基幹防除を徹底する。
- (2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。



6. コブノメイガ

1) 予報の内容

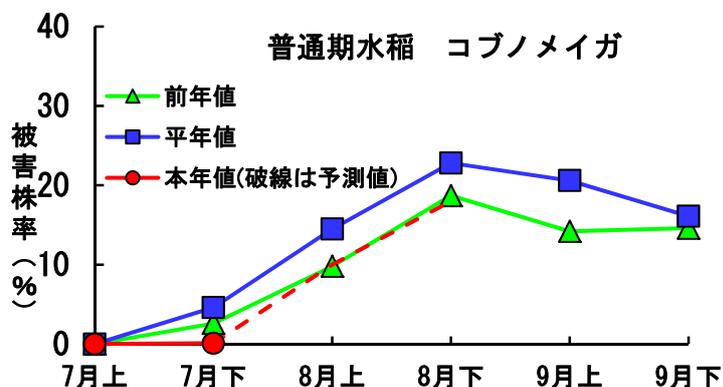
発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) コブノメイガの飛来は6月22~24日、7月4~6日を中心にみられ、飛来量は平年よりやや少ない(P. 13の表4)。〈-~±〉
- (2) 巡回調査では、被害株率は0.1%(平年4.6%、前年2.6%)であり、平年よりやや少なく前年並である。〈-~±〉
- (3) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉(気温やや高: ±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予想パターン図(P. 13の図4)を参考にして、必ず圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)に防除を実施する。



7. フタオビコヤガ(イネアオムシ)

1) 予報の内容

発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 本年の予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は、平年よりやや少なく前年並に推移している(表2)〈-~±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉(気温やや高: ±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 8月中~下旬頃に圃場における発生状況を確認し、必要に応じて防除を実施する。

表2 フタオビコヤガのトラップ誘殺状況(佐賀市川副町, 農業試験研究センター調査)

月	半旬	予察灯			フェロモントラップ		
		平成 26年	平年	前年	平成 26年	平年	前年
		頭	頭	頭	頭	頭	頭
6月	1	0	3	0	9	43	63
	2	0	2	0	11	44	44
	3	0	2	3	11	29	26
	4	0	1	1	3	12	6
	5	0	0.2	0	2	5	4
	6	0	1	0	1	8	5
7月	1	0	1	0	1	16	4
	2	0	3	0	2	18	2
	3	0	5	欠測	3	12	5
	4	0	6	8	2	19	11
	5		26	3		46	5
	6		38	1		121	29
8月	1		38	35		97	28
	2		122	72		179	145
	3		151	92		345	238
	4		162	38		368	169
	5		99	28		240	332
	6		68	12		230	211
9月	1		41	16		113	65
	2		22	21		66	148

注) 予察灯の平年値は、平成16年～25年の平均。

フェロモントラップの平年値は、平成18年～25年の平均。

8. 斑点米カメムシ類

水稻（早植え）の斑点米カメムシ類の項参照。

表3 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3日	10	—	—	—	—	—	—	—	10	10	—
4日	10	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—
5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7日	—	10	—	—	—	—	10	—	—	—	—
8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11日	—	—	—	10	—	—	—	—	10	—	10
12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—
14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—
18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	4	—	10	10	—	—	—	—	4	10
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27日	10	10	—	10	10	10	10	10	10	10	—
28日	—	—	10	—	—	10	—	10	10	—	—
30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3日	10	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—
4日	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—
5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8日	10	—	—	10	10	10	—	—	10	—	—
9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10日	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14日	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
15日	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17日	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—
18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 注) 1 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は20℃未満だが、湿潤が10時間以上)
 2 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上)
 3 : 準好適条件 (湿潤期間中の平均気温は15~25℃でないが、湿潤が10時間以上)
 4 : 準好適条件 (湿潤期間中の気温は比較的低いが、湿潤が10時間以上)
 10 : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
 — : 好適あるいは準好適条件の出現なし
 ? : 判定不能

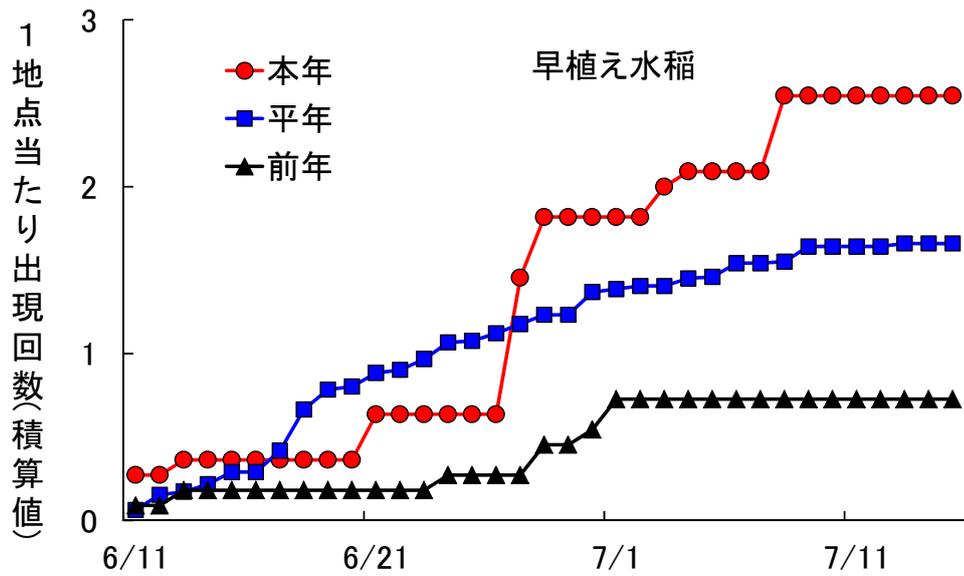


図1 BLASTAMIによる感染好適条件の出現延回数
(5月22日移植の場合：適用期間6月11日～7月15日)

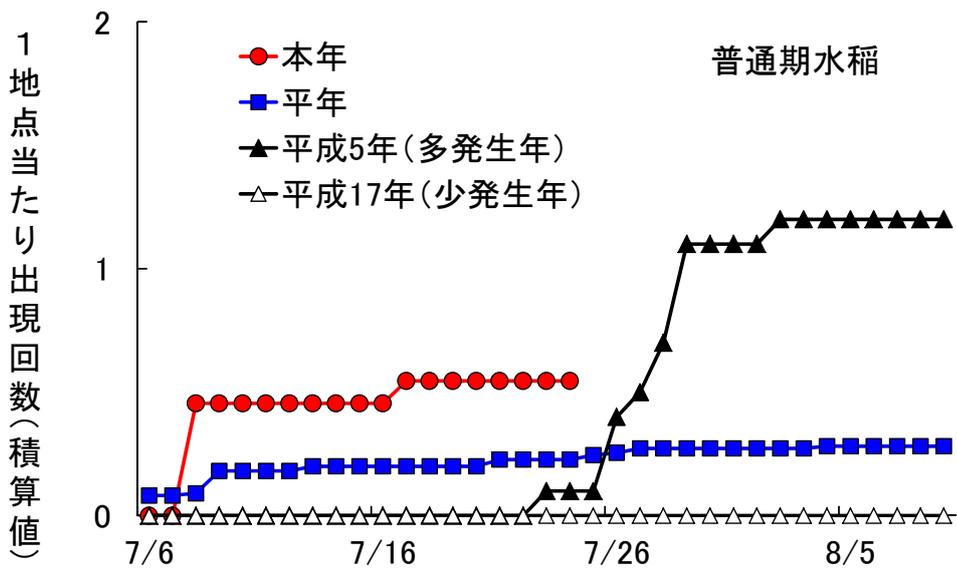


図2 BLASTAMIによる感染好適条件の出現延回数
(6月16日移植の場合：適用期間7月6日～8月9日)

表4 ウンカ類とコブノメイガの飛来状況(平成26年)

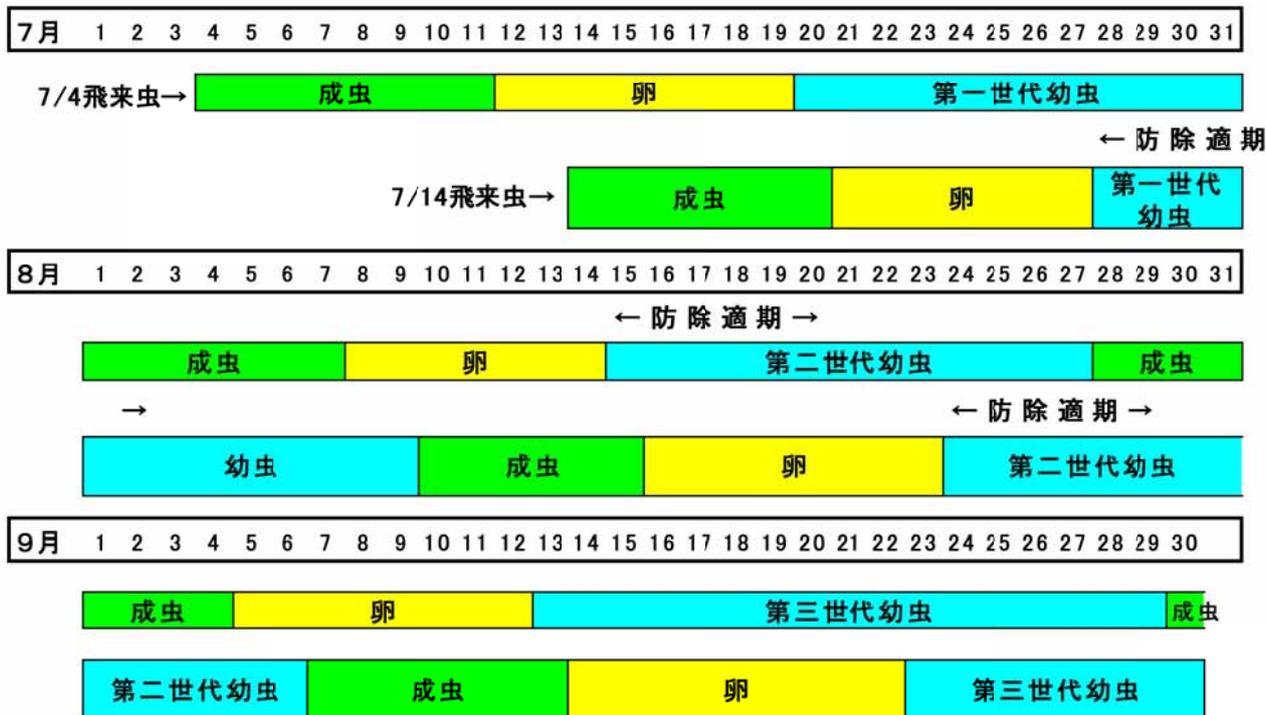
月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県			長崎県		佐賀県			長崎県		佐賀県					長崎県		
		佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	嬉野市	諫早市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	粘着トラップ (20W蛍光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	-	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	1	0	
	22日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7	0	
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	
	24日	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8	0	
	25日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.5	
7月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3日	0	0	0	0	0	1	0	1	14	0	0	0	0	0	0	1	0	
	4日	0	0	2	1	0	2	0	5	18	0	0	0	0	0	0	2	0	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	10	6	0	0	0	0	0	0	9	1.5	
	6日	0	0	0	1	0	0	0	63	22	0	0	0	0	0	0	13	0.5	
	7日	0	0	1	0	0	0	0	27	4	0	0	0	0	0	0	0	0.5	
	8日	0	0	0	0	0	0	4	5	3	0	欠測	0	0	1	0	1	2	
	9日	0	欠測	0	0	0	0	欠測	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2.5	
	10日	欠測	0	0	0	0	欠測	0	1	3	0	0	欠測	0	0	0	0	4.5	
	11日	0	0	1	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
	13日	0	0	0	18	0	3	0	4	58	0	0	0	0	0	0	0	5.5	
	14日	0	0	7	4	0	1	0	58	186	0	0	0	0	0	0	2	3.5	
	15日	0	0	0	2	0	0	0	3	12	0	0	0	0	0	0	2	1.5	
	16日	0	0	0	2	0	0	0	4	12	0	0	0	0	0	0	2	1	
	17日	0	0	0	0	0	1	0	14	3	0	0	0	0	0	0	0	1.5	
	18日	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	19日	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	20日	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6月1日～7月20日までの総誘殺数(本年)		0	0	11	32	0	8	6	215	362	0	0	0	0	3	0	3	85	27
6月1日～7月20日までの総誘殺数(平年)		2.1	9.6	1056	-	-	324	489	8017	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-

注1) ウンカ類：川副町ネットトラップと予察灯は農業試験研究センター調査。嬉野予察灯は農業技術防除センター調査。平年値は川副町ネットトラップと予察灯は過去34年、嬉野町予察灯は過去27年の平均値。嬉野町予察灯は、飛来数が極端に多かった平成3年を除外した数値。長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

注2) コブノメイガ：川副町は農業試験研究センターで調査。千代田町、白石町、伊万里市、塩田町は各調査員が調査。平年値の川副町ライトトラップは過去26年の平均値。川副町のフェロモントラップは、農業技術防除センターが調査。

図3 トビイロウンカの発生予想パターン 第3版

(平成26年7月25日、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

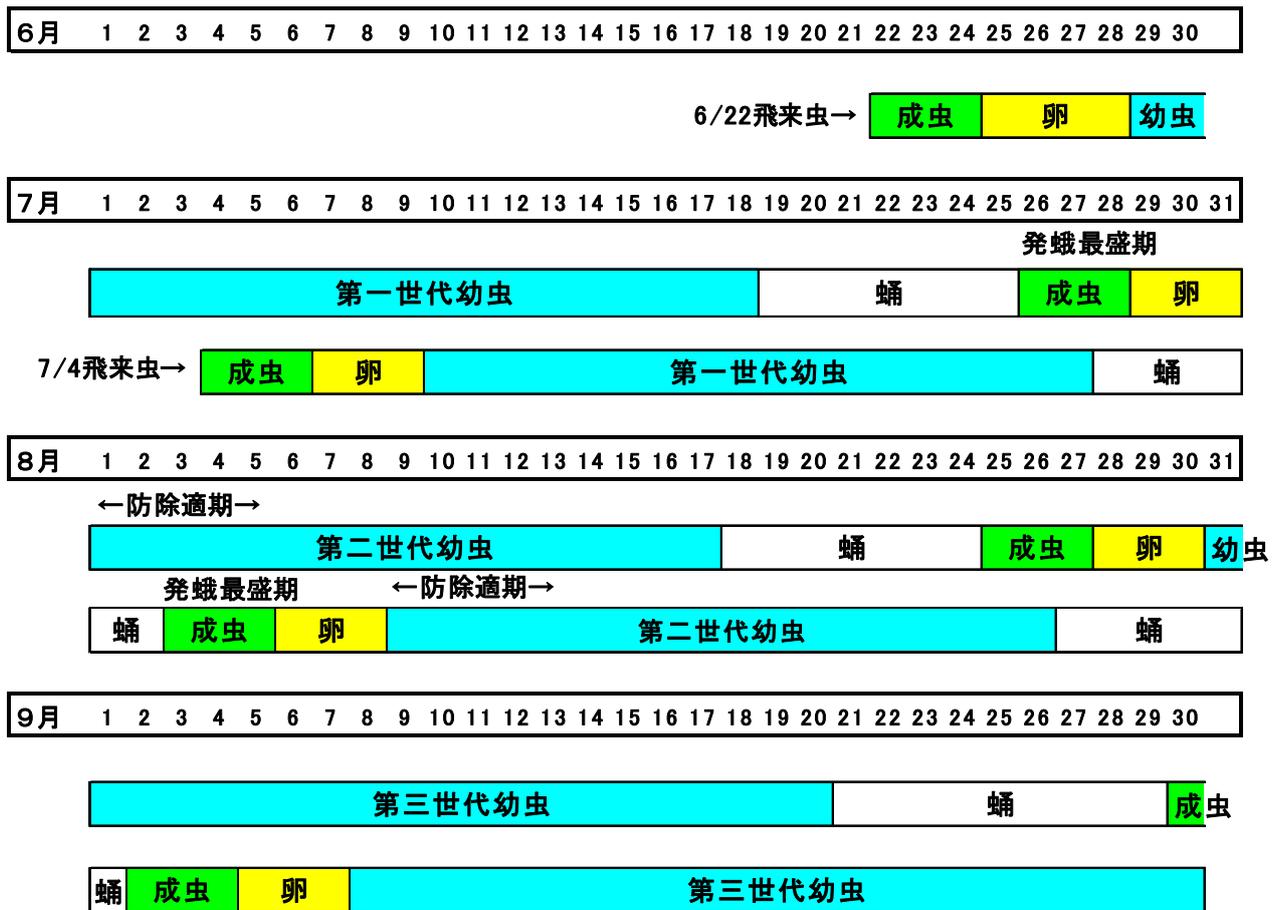
- (1) 7月4日と7月14日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(7月24日までは今年の実データ、7月25日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
圃場への定着は、7月14日の飛来波の方が多いと考えられる。
- (2) **防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。**
- (3) 飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認して防除を実施する。
- (4) 最新の気温で再計算した結果、発生予想パターン第2版(7月18日作成)と比較して、今回の第3版は、7月4日飛来の第2世代の羽化が1日、7月14日飛来の第3世代のふ化が1日早くなった。

参考：ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	: 真横 
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	: 真横～やや斜め後ろ 
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色(体側の色が濃い場合あり)	: 斜め後ろ  

図4 コブノメイガの発生予想パターン 第3版

(平成26年7月25日、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

- (1) 6月22～24日、7月4～6日頃に飛来したコブノメイガのうち、6月22日、7月4日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(7月24日までは今年のデータ、7月25日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
- (2) **防除適期は、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)である。**
- (3) 飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認して防除を実施する。
- (4) 今後、新たな飛来波が加わる可能性もある。最新の飛来状況については、佐賀県農業技術防除センターのホームページ(<http://www.pref.saga.lg.jp/boujo.html>)における「海外飛来性害虫情報」を参照する。

果 樹

【概要】

作物名	病虫害名	発生量		病虫害防除 のてびきの 記載ページ	備 考
		平年比	前年比		
カンキツ	かいよう病	やや少	並	220～222	
	黒点病	並	並	218～220	
	ミカンハダニ	やや多	多	244～249	
	チャノキイロアザミウマ	並	並	237～244	
ナシ	ナシメシクイ	並	並	298～301	
	ハダニ類	やや多	並	303～306	
ブドウ	べと病	やや少	並	326～328	
	褐斑病	並	並	329～330	
果樹全般	カメムシ類	並	やや多	カンキツ：251～254 ナシ：301～302 ブドウ：342 平成26年5月21日付け病虫害 虫対策資料第4号 参照	

【特記事項】

[カンキツ]

- 黒点病防除では、マンゼブ剤散布後の積算降雨量が200mm～250mmに達した時点を次の散布の目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次の散布を行う。
- チャノキイロアザミウマによる後期被害を防ぐために、8月中旬～9月上旬の防除を徹底する。特に発生源となるイヌマキ、サンゴジュ等を防風樹として植栽している園や、園内にチャ、サカキ等の樹木が植栽されている園では注意する。
- 園内および園周囲の雑草は、ミカンキイロアザミウマやハナアザミウマ類の発生源となるので、果実が着色する前までに除草作業を行う。
- 幼木園や夏期剪定を終えたハウスミカン園では、ミカンハモグリガ・アゲハ対策として10～14日毎に殺虫剤を散布する。ただし、薬剤抵抗性の発達を回避するために、異なる系統の殺虫剤を散布する。

[ナシ]

- 近年、夜蛾類による被害が増えているので、忌避灯を点灯する時間及び点灯時の園内の明るさに注意する。
- 8月中下旬は炭疽病の急増期にあたるので、罹病性品種の「豊水」が植栽された園では、「幸水」の収穫終了後に殺菌剤を散布する。ただし、ストロビルリン剤抵抗性が問題となっているため、「豊水」の収穫まで14日以上であれば、オーソサイド水和剤、オキシラン水和剤等の保護殺菌剤を用いる。収穫まで14日以内であれば、汚れが問題となるため、これらの薬剤は使用しない。

3. 果実が過熟になると輪紋病の発生が助長されるので、適期に収穫する。また、輪紋病の初期病斑は小さくてわかりにくいので、出荷時に箱内に混入しないよう注意すること。

[ブドウ]

1. ベと病では、ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対する感受性が低下しているため、防除には使用しない。
2. 果実が過熟になると晩腐病が問題になるため、適期に収穫する。

[キウイフルーツ]

1. 県内において、かいよう病の発生が確認されている。疑わしい症状が見つかった場合は、すぐに関係機関へ連絡する。（平成26年5月22日付け病害虫発生予察特殊報第2号参照）
2. かいよう病感染樹の切除や伐採を行った際は、他樹への感染を防止するため、登録農薬を施用する。なお、切除された枝や葉は、埋没するなどして適切に処分する。

[果樹全般]

1. カメムシ類が、園によって飛来する場合がありますので、こまめに園内を見て回り、確認した場合は早急に防除を行う。

カンキツ

（巡回調査日：7月17～22日）



巡回調査時の生育状況

1. かいよう病

1) 予報の内容

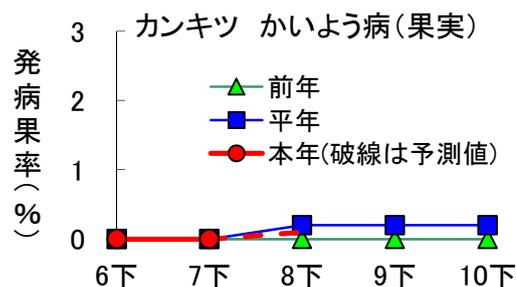
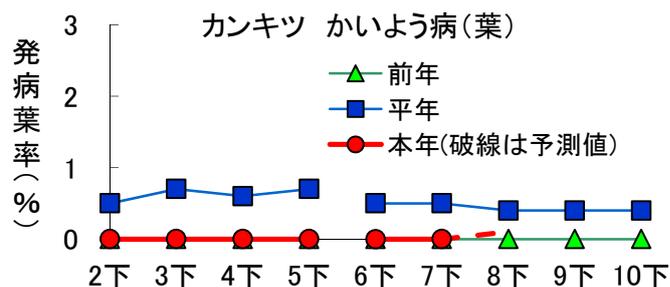
発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、温州みかんでの発生を認めていない。（発病葉率：平年0.5%、前年0%、発病果率：平年0%、前年0.1%）〈-～±〉
- (2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病が前年に発生した園や、風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、いよかん、はるみ等）が植栽された園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、無機銅水和剤（クレフノン200倍加用）による防除を行う。散布間隔は20～25日とする。
- (2) 銅水和剤（クレフノン200倍加用）にマシン油乳剤やマンゼブ水和剤を加用すると銅水和剤の防除効果が低下するので控える。
- (3) 発病した枝や葉は今後の伝染源となるので除去する。ただし、強剪定すると枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので行わない。
- (4) 台風の襲来が予想される場合は、襲来の1～7日前までに必ず防除を行う。



注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発病果率は0.9%（平年3.0%、前年2.0%）であり、平年及び前年並である。〈±〉

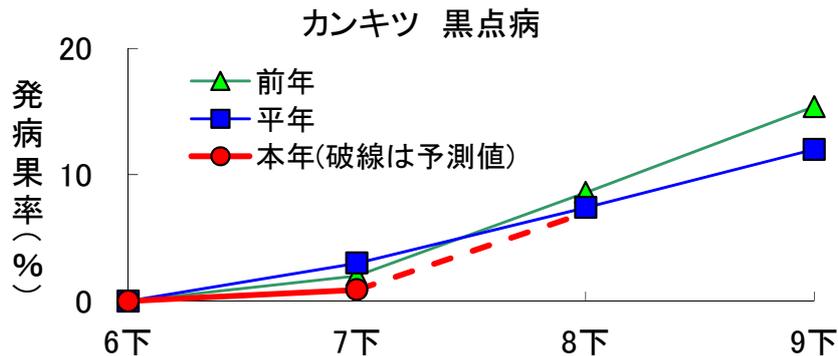
(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) マンゼブ水和剤散布後の積算降雨量が200mm～250mmに達した時点を次回の散布の目安とする。なお、同雨量に達しない場合でも、散布1ヵ月後を目安に次回の散布を行う。

(2) 園内湿度を下げるために防風樹の剪定等を行い、通風をよくする。

(3) 秋雨は発病を助長するので、8月中下旬の防除を徹底する。



3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

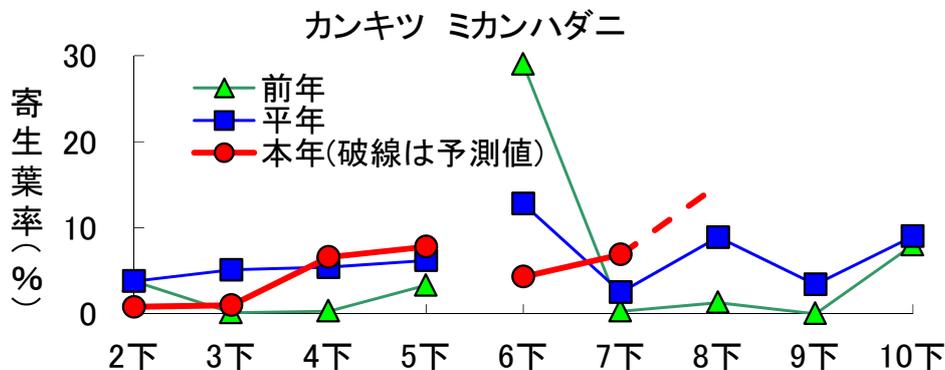
(1) 巡回調査では、寄生葉率は6.9%（平年2.5%、前年0.3%）であり、平年よりやや多く前年より多いが、発生が多い圃場は一部に限られる。〈±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ種類の薬剤は年1回の使用とする。また、前年使用した殺ダニ剤は使用しない。

(2) 薬剤の防除効果があがるよう、低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫の数が0.5～1頭）に防除を行う。



4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

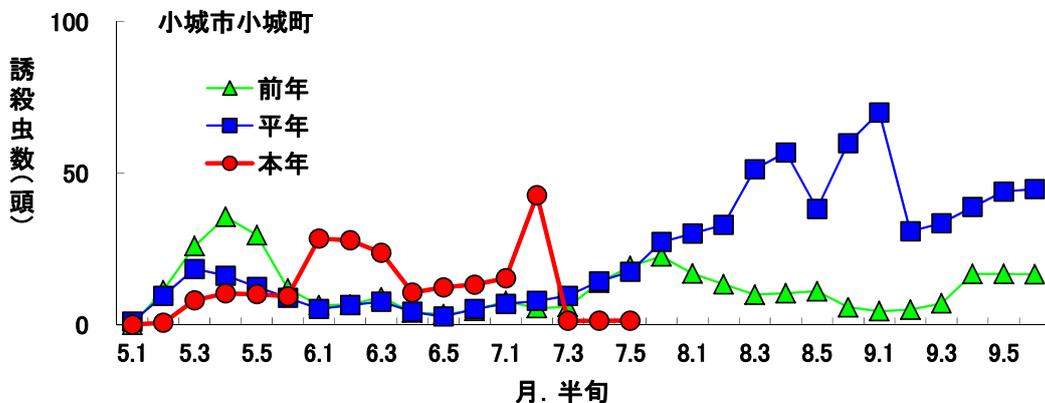
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、発生果率は0.3%（平年1.2%、前年2.0%）であり、平年並で前年よりやや少ない。〈±〉
- (2)小城市小城町の果樹試験場内に設置した黄色粘着トラップによる7月1半旬～7月5半旬の誘殺虫数は、第2半旬に増加したものの平年並～やや少なく推移している。〈±〉
- (3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)後期被害を抑制するために、8月中旬～9月上旬の防除を徹底する。
- (2)イヌマキ、サンゴジュ等を防風樹として植栽している園や、園内にチャ、サカキ等の樹木が植栽されている園では注意する。
- (3)秋期に高温乾燥が続くとアザミウマ類の被害が多くなる傾向にあるため注意する。



黄色粘着板トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺虫数の推移

ナシ

(巡回調査日：7月25日)



巡回調査時の生育状況

1. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

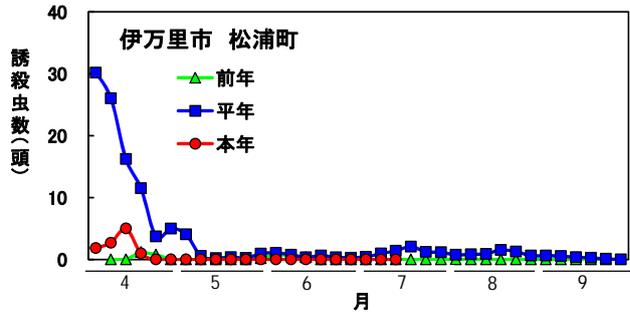
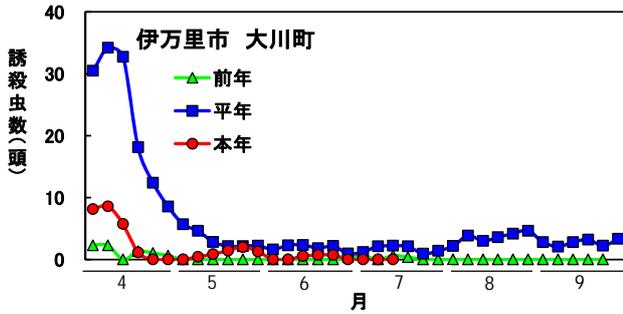
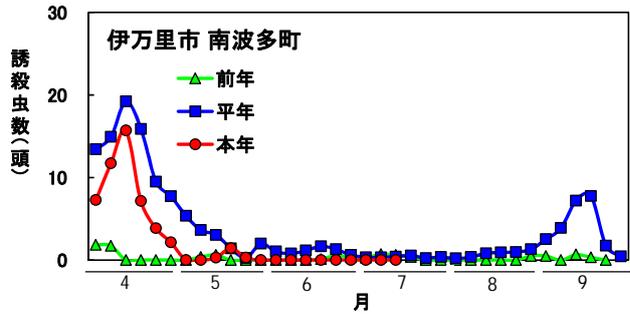
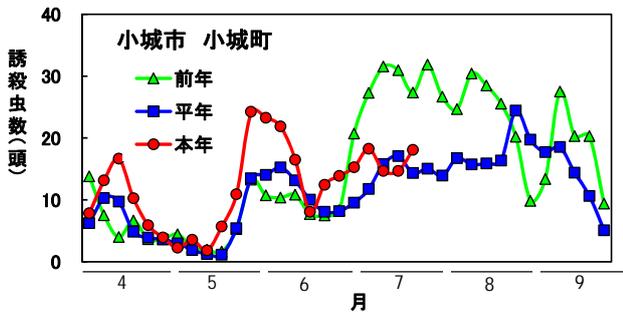
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1)フェロモントラップでの7月上中旬の誘殺数は、平年並で前年よりやや少なく推移している。〈±〉
- (2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)防除薬剤として、合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド系剤を使用するが、ネオニコチノイド系剤については、ハマキムシ類に対する効果が劣るので注意する。
- (2)晩生品種が混植または近接している園や団地では薬液の飛散を防止するとともに、使用する薬剤の選定（収穫前使用日数など）には十分に注意する。



フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺推移
 (小城市は果樹試験場、伊万里市は西松浦農業改良普及センター調査)

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生葉率は3.0%（平年1.3%、前年0.3%）であり、平年よりやや多く前年より多い。〈±～+〉

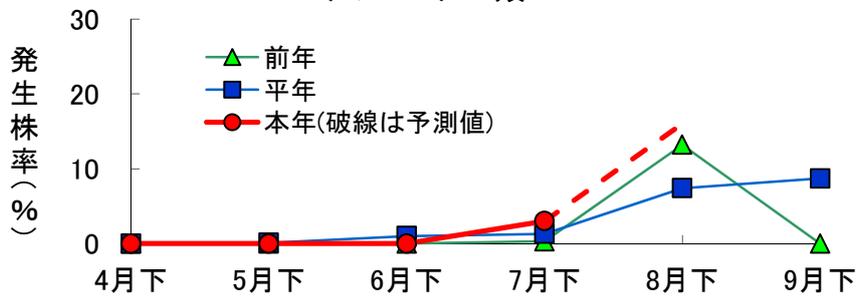
(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ種類の薬剤は年1回の使用とする。また、前年使用した殺ダニ剤は使用しない。

(2) ハダニ類は高温乾燥で急増するので、低密度時（寄生葉率10%未満または1葉当たりの雌成虫数0.5頭以下）に防除を行う。

ナシ ハダニ類



ブドウ

(巡回調査日：7月18日～25日)



巡回調査時の生育状況

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生葉率は0.7%（平年9.2%、前年0%）であり、平年よりやや少なく前年並である。〈-～±〉

(2)気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

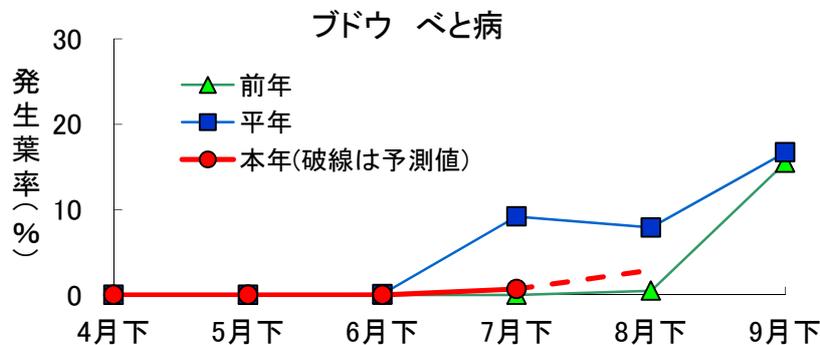
3) 防除上注意すべき事項

(1)降雨によって発病が進展するので、降雨前の予防散布を行う。

(2)罹病葉は、二次伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。

(3)防除効果を高めるために、棚面の上からも散布するよう心懸ける。

(4)ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対する感受性が低下しているため、他系統の薬剤を使用する。



果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)発生量

①予察灯（県内3地点、図1、表1）とフェロモントラップ（県内6地点、図2、表2）による誘殺数は、平年よりやや少なく前年並で推移している。〈-～±〉

②7月中下旬に行ったヒノキ毬果における寄生数調査では、1地点あたりの成幼虫数は10.6頭（平年14.1頭、前年4.5頭）で、平年並で前年よりやや多い（表3）。〈±〉

③県内各地で採集したヒノキ毬果における7月中下旬の平均口針鞘数数は0.7本/果（平年3.5本、前年1.0本）で、平年よりやや少なく前年並である（表3）。〈-～±〉

④気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

(2)果樹園への飛来時期

①ヒノキ毬果における口針鞘数を基に算出した果樹カメムシ類の園への飛来時期は、概ね9月2～3半旬頃と予想される（表3）。

②カメムシ類はヒノキ毬果の種子を餌とする。調査地点におけるヒノキ毬果の着果指数は「やや多」であることから、上記よりも飛来時期が遅くなる可能性がある（表3）。

3) 防除上注意すべき事項

(1)こまめに園内を見て回り、確認した場合は早急に防除を行う。

(2)果樹カメムシ類は樹高の高い樹木に一度飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪除する。

- (3) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサーチエンス）を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。
- (4) 県内各調査地点における誘殺状況の推移については、佐賀県農業技術防除センターHPの「病害虫データ情報」を参照する（毎週更新）。

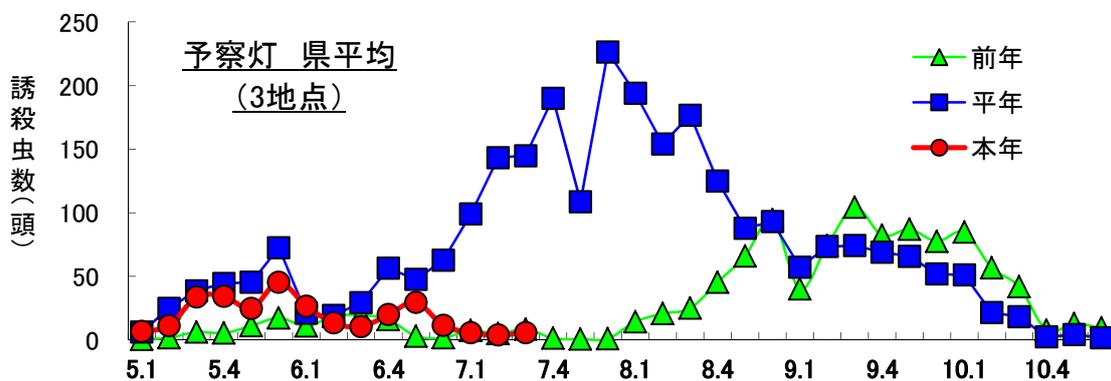


図1 予察灯による果樹カメムシの誘殺状況の推移(県平均)

表1 予察灯による果樹カメムシ類の誘殺状況の推移(県内各調査地点の値)

月・半旬	佐賀市 大和町			小城市 小城町			藤津郡 太良町		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
6.1	45	32	26	61	48	17	0	1	0
6.2	41	38	46	12	37	27	0	1	1
6.3	27	75	34	15	41	44	0	1	0
6.4	56	98	21	24	118	43	0	1	0
6.5	105	97	8	13	81	4	0	2	0
6.6	34	100	0	11	122	6	0	7	0
7.1	20	123	0	2	230	30	0	13	0
7.2	12	145	0	3	373	19	0	10	0
7.3	18	122	0	5	396	34	0	12	0
7.4		189	0		490	5		11	0
7.5		83	1		289	1		6	0
7.6		234	4		561	0		19	0
8.1		181	35		529	22		8	0
8.2		210	45		351	37		9	0
8.3		285	88		382	12		7	0
8.4		236	141		267	40		9	0
8.5		153	117		192	147		5	0
8.6		251	133		232	245		4	0

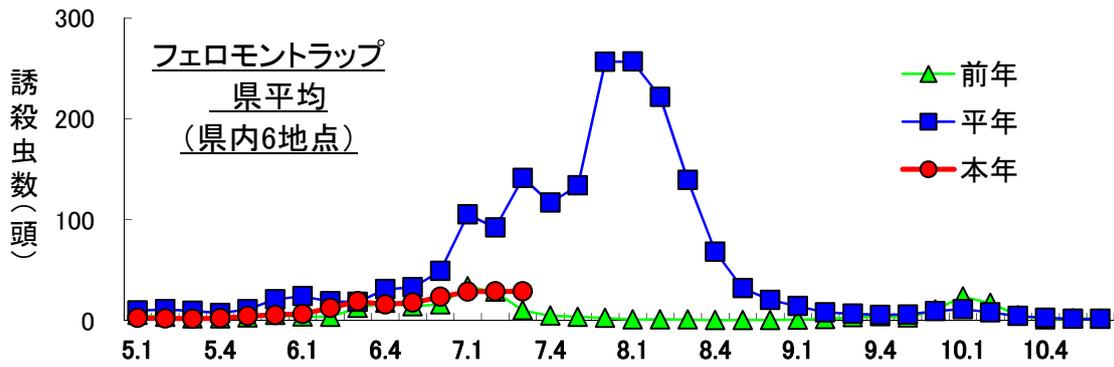


図2 フェロモントラップによる果樹カメムシの誘殺状況の推移(県平均)

表2 フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況の推移(県内各調査地点の値)

月・半旬	三養基郡 基山町			唐津市 浜玉町			唐津市 鎮西町		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
5.1	0	2	0	0	5	0	1	0	0
5.2	0	6	0	0	7	0	1	1	0
5.3	0	10	0	0	6	1	1	1	0
5.4	0	2	0	0	6	1	1	3	2
5.5	0	2	0	1	11	0	1	5	1
5.6	0	5	0	0	47	0	2	10	0
6.1	0	6	0	0	52	0	2	15	0
6.2	0	4	0	0	29	0	1	14	0
6.3	0	4	2	69	24	8	0	12	1
6.4	0	9	2	45	40	14	0	10	0
6.5	0	22	0	48	56	5	0	8	0
6.6	0	50	2	77	91	5	0	17	1
7.1	1	154	1	79	157	5	2	17	0
7.2	2	34	0	74	196	5	1	7	0
7.3	0	42	2	68	313	2	0	177	0
7.4		58	1		220	0		112	0
7.5		102	0		221	0		16	0
7.6		215	0		380	0		376	0
月・半旬	鹿島市 古枝			伊万里市 南波多町			小城市 小城町		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
5.1	9	36	6	0	3	0	6	10	26
5.2	4	29	4	0	3	4	7	11	13
5.3	3	23	1	0	2	0	7	8	10
5.4	4	20	0	1	1	2	7	7	8
5.5	15	33	2	3	2	3	8	7	12
5.6	14	35	7	4	3	3	13	12	22
6.1	20	32	9	3	15	2	13	9	12
6.2	63	30	12	0	16	0	11	11	9
6.3	38	32	31	0	18	7	7	12	27
6.4	42	43	44	0	49	9	9	14	35
6.5	47	56	45	0	17	1	11	16	32
6.6	44	67	61	0	16	1	19	19	25
7.1	42	98	83	0	27	1	47	73	114
7.2	50	88	97	1	60	0	45	82	68
7.3	86	96	26	1	82	0	19	52	31
7.4		78	25		101	0		56	2
7.5		73	19		216	0		49	3
7.6		134	14		251	0		50	2

表3 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数(7月下旬現在)

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況			口針鞘数	離脱予測時期 (各調査日から算出)	ヒノキ毬果着果状況
		7月下旬					
		成虫 ¹⁾	幼虫	合計			
1	上峰町	1	0	1	0.1	9月2半旬頃～	中 ²⁾
2	神崎市	5	13	18	0.7	9月2半旬頃～	多
3	小城市	4	0	4	1.3	9月1半旬頃～	やや多
4	多久市	9	0	9	0.2	9月2半旬頃～	やや多
5	唐津市1	3	0	3	0.4	9月2半旬頃～	やや多
6	唐津市2	6	2	8	0.3	9月2半旬頃～	やや多
7	伊万里市1	14	28	42	0.9	9月3半旬頃～	やや多
8	伊万里市2	3	1	4	1.1	9月3半旬頃～	やや少
9	伊万里市3	3	11	14	1.3	9月3半旬頃～	中
10	白石町	6	0	6	1.3	9月1半旬頃～	極多
11	鹿島市1	0	0	0	0.1	9月3半旬頃～	やや多
12	鹿島市2	2	0	2	0.2	9月3半旬頃～	多
13	鹿島市3	3	4	7	0.8	9月3半旬頃～	極多
14	太良町1	7	22	29	0.9	9月3半旬頃～	やや多
15	太良町2	5	7	12	2.0	9月2半旬頃～	中
	平均	4.7	5.9	10.6	0.7	9月2～3半旬頃～	やや多
	平年			14.1	3.5		
	前年(H25年)			4.5	1.0		やや少

1)チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの寄生が主であった。

2)ヒノキ毬果着果指数:福岡総農試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

- ・極少:ほとんど結実が見あたらない
- ・少:梢頭部にわずかに結実
- ・やや少:梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中:梢頭部から中央部付近にかけて結実
- ・やや多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- ・多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- ・極多:梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実
- ・極多:梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

茶

作物名	病害虫名	発生量		病害虫防除のてびきの記載ページ	備考
		平年比	前年比		
茶	炭疽病	やや少	並	393～394	
	輪斑病	多	多	394	
	カンザワハダニ	やや多	並	397～398	
	クワシロカイガラムシ	多	多	405～406	
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	やや多	402～403	
	チャノキイロアザミウマ	やや少	並	403～404	
	チャノコカクモンハマキ	並	やや多	400～402	
	チャノホソガ	やや多	並	399～400	

【特記事項】

1. 県内において、チャトゲコナジラミの発生が確認されている。疑わしい葉が見つかった場合には、すぐに関係機関へ連絡する（平成26年4月9日付け病害虫発生予察情報特殊報第1号参照）。防除対策は、ホームページ掲載の「チャトゲコナジラミの防除対策」を参照する。
2. チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイは、今後秋にかけて発生が増えるため、萌芽期～開葉初期の防除を行う。多発生園では、最初の防除から一週間後にも追加防除を行う。
3. チャノコカクモンハマキは、8月上～中旬が重点防除時期である。葉がつづられると防除効果があがりにくいため、適期（発蛾最盛期から7～10日後）に防除を行う。
4. 輪斑病の発生が多い。本病は、高温期に発生が多く、整枝時の傷口から感染しやすいため、整枝後は直ちに防除を行う。

茶

（巡回調査：7月18～24日）



巡回調査時の生育状況

1. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

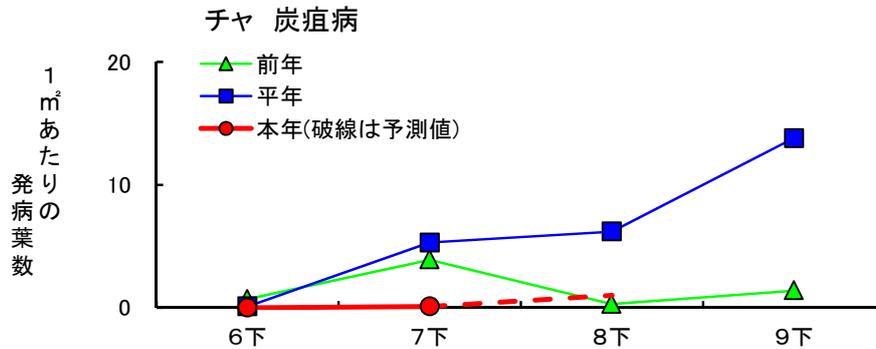
(1) 巡回調査では、1m²あたりの発病葉数は0.1枚（平年5.3枚、前年3.9枚）であり、平年より少なく前年よりやや少ない。〈－〉

(2) 気象予報では並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病は雨滴により新芽に伝染するため、開葉初期の予防散布を徹底する。

(2) 発生園は整枝により罹病葉を除去し、日当たりおよび通風をよくする。



2. 輪斑病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

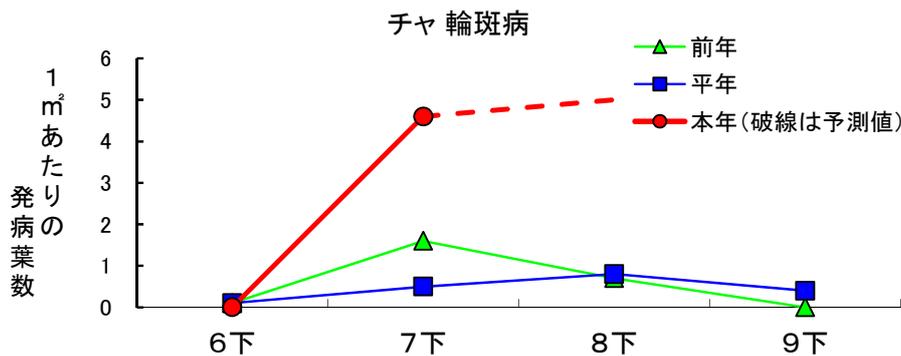
(1) 巡回調査では、1 m²あたりの発病葉数は4.6枚（平年0.5枚、前年1.6枚）であり、平年及び前年より多い。〈+〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 整枝時の傷口から感染するため、摘採後直ちに防除を行う。

(2) 二番茶摘採後に多発した場合は、剪枝により病斑部を除去する。



3. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生葉率は0.9%（平年0.6%、前年0.3%）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉

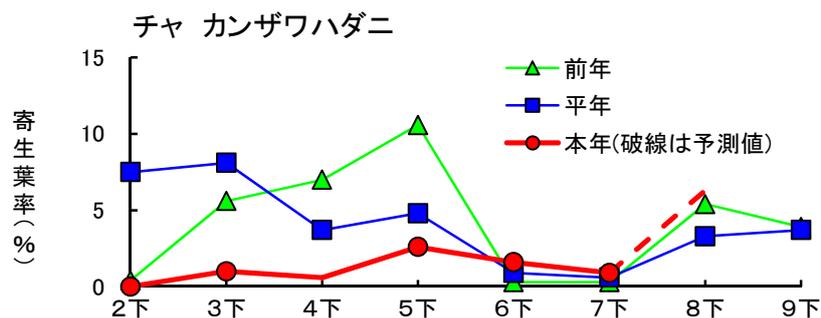
(2) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 生息部位である葉裏へ薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤は年一回の使用とする。

(3) カブリダニ等の天敵に影響の少ない薬剤により防除を行う。



4. クワシロカイガラムシ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

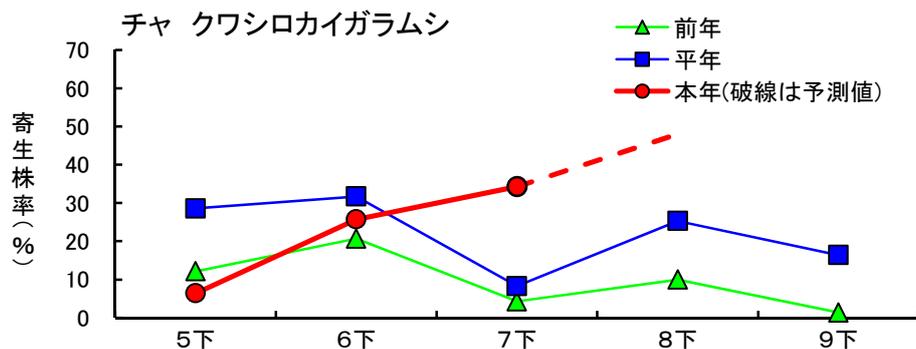
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生株率は34.3%（平年8.3%、前年4.3%）で、平年及び前年より多い。〈+〉

(2) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生の多い圃場では、次世代の防除適期である幼虫ふ化最盛期（9月中・下旬）に確実に防除を行う。ふ化状況を確認し、適期に防除を行う。



5. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

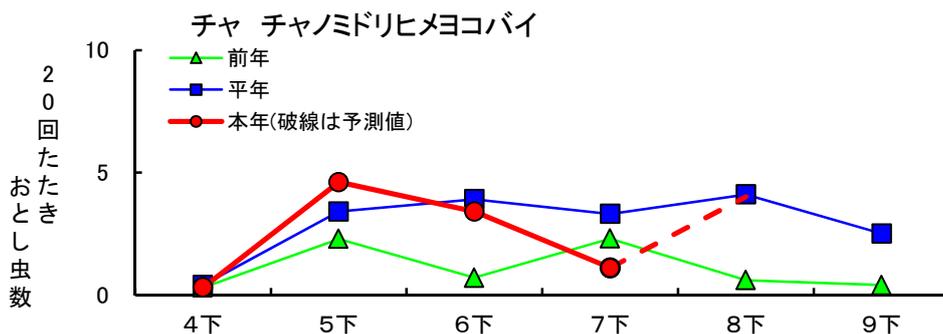
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、20回たたき落とし虫数は1.1頭（平年3.3頭、前年2.3頭）であり、平年及び前年よりやや少ない。〈-~±〉

(2) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。



6. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

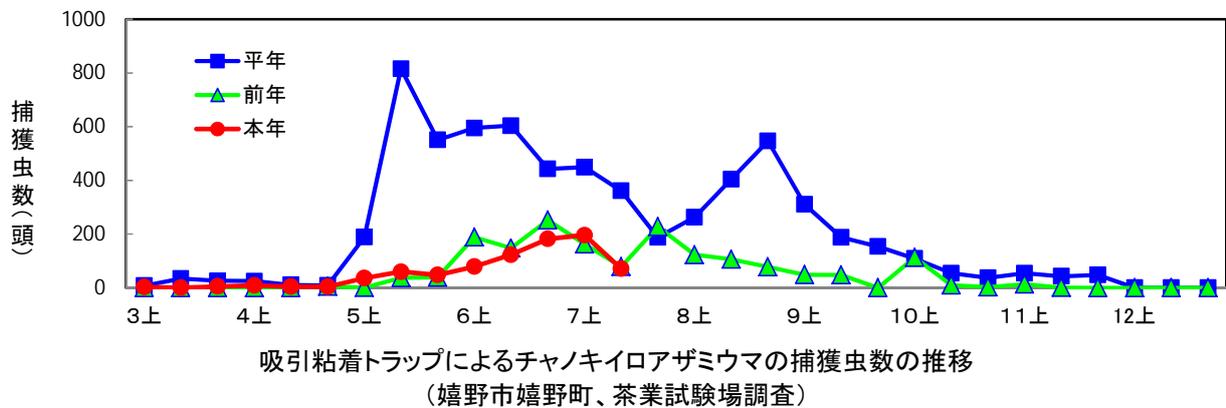
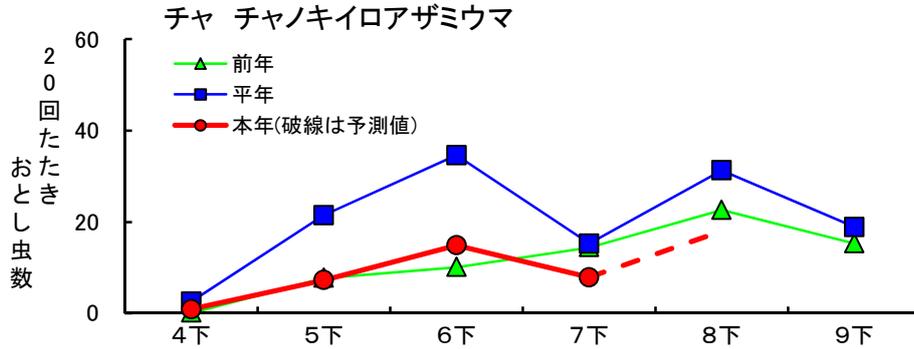
(1) 巡回調査では、20回たたき落とし虫数は7.9頭（平年15.3頭、前年14.4頭）で、平年及び前年よりやや少ない。〈-~±〉

(2) 吸引粘着トラップによる誘殺虫数は、6月下旬が182頭（平年443頭、前年252頭）、7月上旬が196頭（平年449頭、前年163頭）、7月中旬が71頭（平年361頭、前年79頭）と平年よりやや少なく前年並で推移している。〈-~±〉

(3) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫は葉裏に生息することが多いので、葉裏にも薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



7. チャノコカクモンハマキ

1) 予報の内容

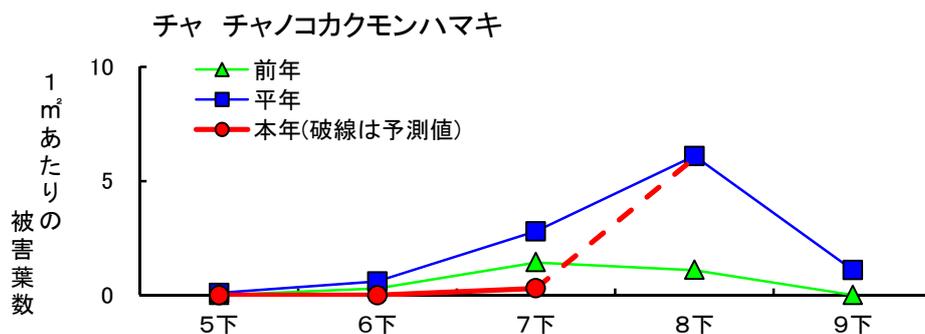
発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、1 m²あたりの被害葉数は0.3枚（平年2.8枚、前年1.4枚）で、平年及び前年よりやや少ない。〈-～±〉
- (2) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 8月上～中旬は本虫の重点防除時期である。
- (2) 葉がつづられると防除効果があがりにくいため、各地区に設置したトラップ情報等を参考にしながら、適期（発蛾最盛期から7～10日後）に防除を行う。



8. チャノホソガ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

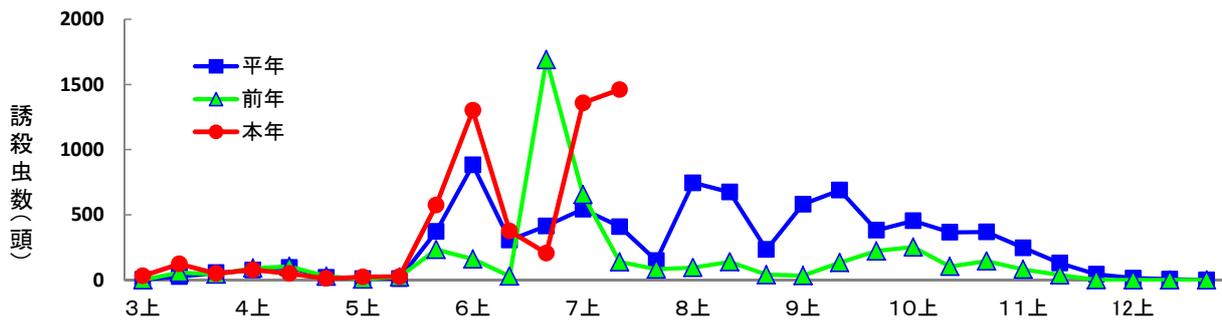
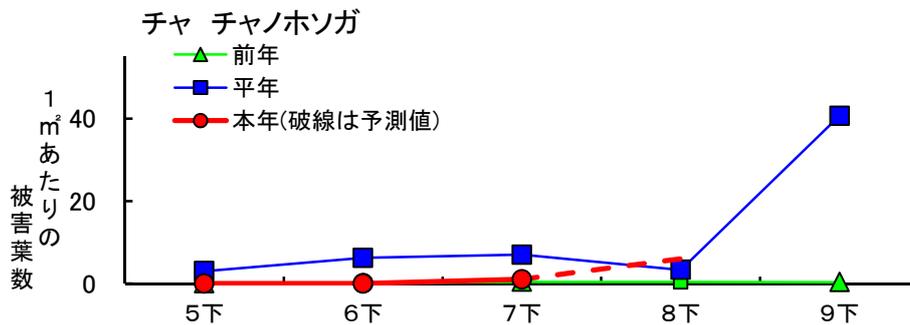
(1) 巡回調査では、1 m²あたりの被害葉数は1.0枚（平年7.0枚、前年0.4枚）で、平年よりやや少なく前年並である。（-～±）

(2) フェロモントラップによる誘殺虫数は、6月下旬が206頭（平年415頭、前年1961頭）、7月上旬が1359頭（平年543頭、前年654頭）、7月中旬が1461頭（平年409頭、前年139頭）と平年及び前年よりやや多く推移している。（±～+）

(3) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。（±～+）（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) チャノコカクモンハマキと同時防除を行う。



フェロモントラップによるチャノホソガの誘殺数の推移
 (嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

野 菜

【概要】

作物名	病害虫名	発 生 量		病害虫防除の てびきの記載 ページ (8月1日以降)	備考
		平年比	前年比		
イチゴ (育苗圃)	うどんこ病	多	多	188～191	平成26年7月31日 付け注意報第2号 参照
	苗立枯症	並	並	193～198	平成26年6月27日 付け病害虫対策資 料第6号参照
	ハダニ類	多	多	199～200	
	アブラムシ類	並	並	204～205	
アスパラ ガス	茎枯病	並	並	298～299	
	褐斑病	並	並	299～300	
	斑点病	やや多	多	299	
	アザミウマ類	並	並	301～302	
	ハダニ類	やや多	やや多	302	

【特記事項】

[イチゴ]

1. うどんこ病の発生が多い。育苗圃での発生が本圃での発生につながるため、育苗期の薬剤防除を徹底し、健全苗の育成に努める（平成26年7月31日付け注意報第2号参照）。
2. 炭疽病は、ビニル雨よけや水滴の小さい灌水装置を利用して、水はねによる菌の飛散を防ぐとともに、定期的な薬剤防除を徹底する。なお、ゲッター水和剤及びセイビアーフロアブル20については、耐性菌の発生・蔓延を防ぐため、育苗期における使用回数を各3回以内にとどめる（平成26年6月27日付け病害虫対策資料第6号参照）。
3. ハダニ類の発生が多い。苗によって本圃へ持ち込まないように育苗期の防除を徹底する。

[施設果菜類（ナス、キュウリ、トマト等）共通]

1. 育苗時期からコナジラミ類やアザミウマ類の防除を徹底する。
 - ①育苗期後半から定植時に粒剤を施用し、本圃初期の発生を防ぐ。
 - ②施設開口部に防虫ネットを設置して、圃場内への侵入を防ぐ。
 - ③圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。

イチゴ（育苗圃）

（巡回調査：7月17日～24日）

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）



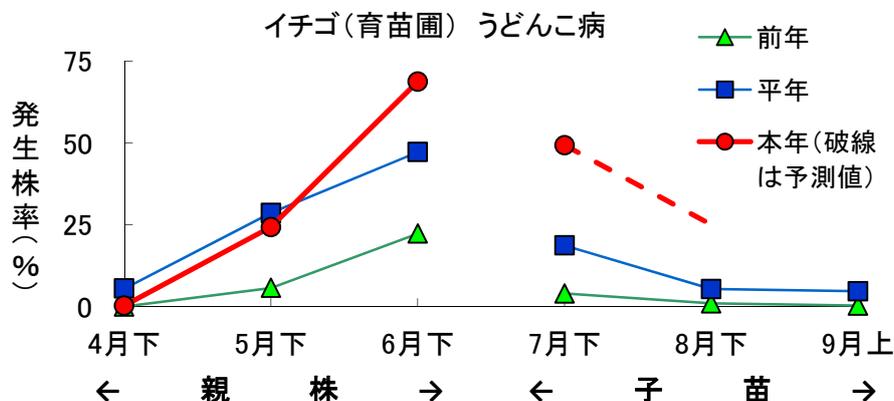
巡回調査時の生育状況

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は49.3%（平年18.7%、前年4.0%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉
- (2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏やランナー先端の子苗にも薬液が十分かかるように散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) 詳細な防除対策は平成26年7月31日付け注意報第2号を参照する。



2. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

1) 予報の内容

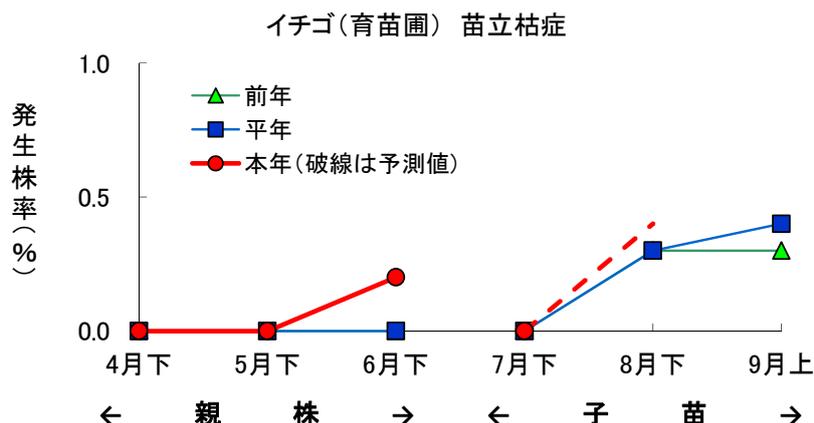
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生を認めていない（発生株率：平年0%、前年0%）。〈±〉
- (2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病株はすみやかに圃場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) 詳細な防除対策は平成26年6月27日付け病害虫対策資料第6号を参照する。



3. ハダニ類

1) 予報の内容

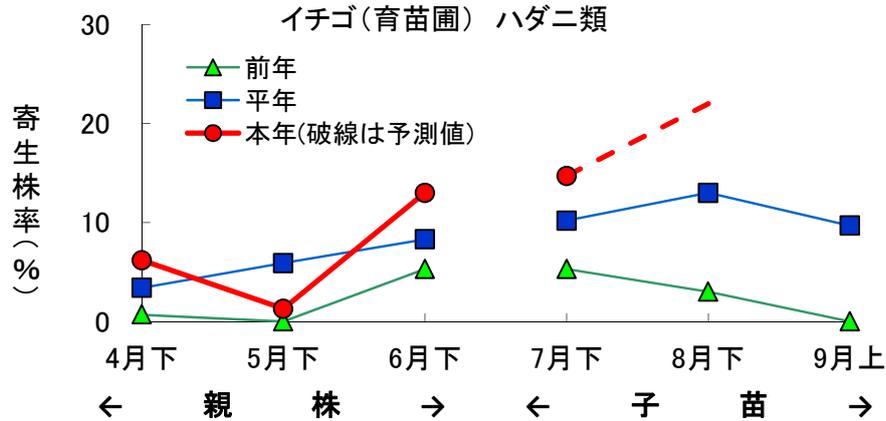
発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、寄生株率は14.7%（平年10.2%、前年5.3%）であり、平年及び前年よりやや多く、一部で多発生圃場が見られる。〈±~+〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉 〈気温やや高：±~+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



アスパラガス

(巡回調査：7月18日～24日)



巡回調査時の生育状況

1. 茎枯病

1) 予報の内容

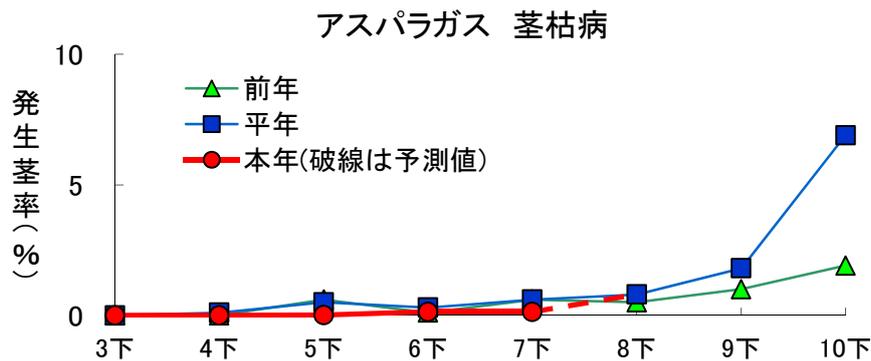
発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は0.1% (平年0.6%、前年0.6%) であり、平年及び前年よりやや少ない。〈-~±〉
- (2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病茎は早急に除去・処分し、防除を徹底する。
- (2) 雨の降り込みを防ぐため、強い雨風のときはサイドビニルを下ろす。



2. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

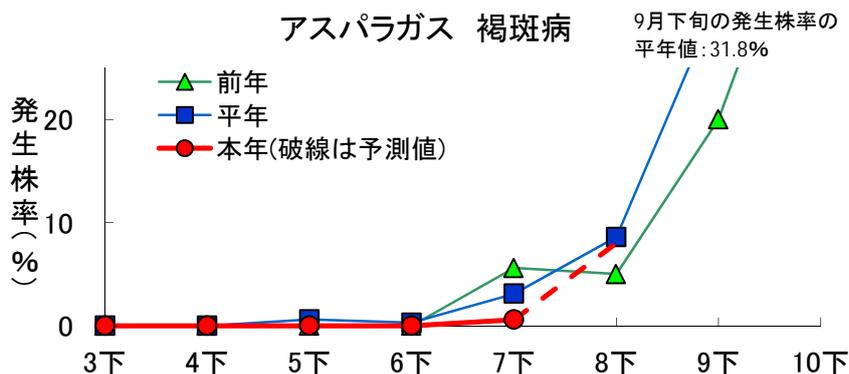
2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は0.6% (平年3.1%、前年5.6%) であり、平年よりやや少なく前年より少ない。〈-~±〉
- (2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は早急に除去・処分し、防除を徹底する。

(2) 過繁茂にならないよう、茎葉を適切に管理し、通風をよくする。



3. 斑点病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

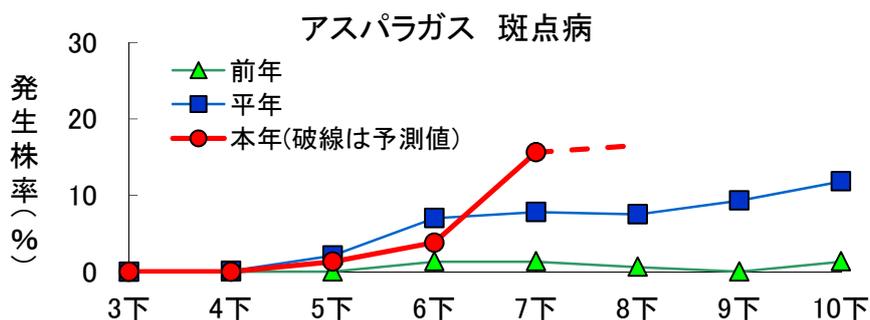
(1) 巡回調査では、発生株率は15.6%（平年7.8%、前年1.3%）であり、平年よりやや多く前年より多い。〈±〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は早急に除去・処分し、防除を徹底する。

(2) 過繁茂にならないよう、茎葉を適切に管理し、通風をよくする。



4. アザミウマ類（ネギアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

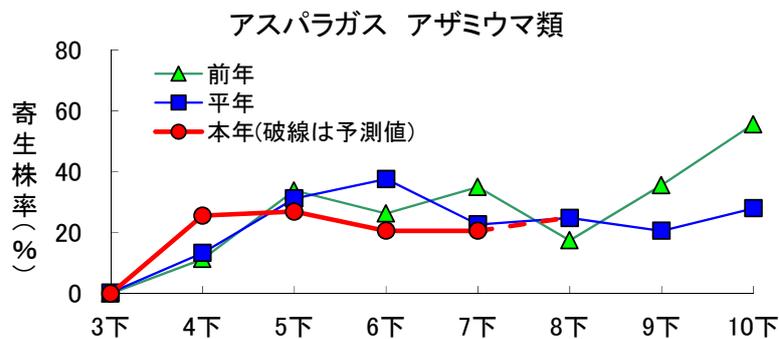
(1) 巡回調査では、寄生株率は20.6%（平年22.7%、前年35.0%）であり、平年並で前年よりやや少ない。〈±〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



5. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

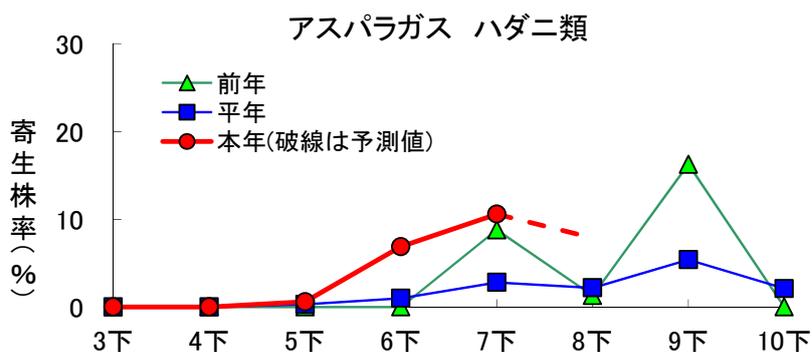
(1) 巡回調査では、寄生株率は10.6%（平年2.8%、前年8.8%）であり、平年より多く前年並であるが、多発生の圃場は一部に限られる〈±～+〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉〈気温やや高：±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



5. 病害虫等診断依頼状況

平成26年6月21日～平成26年7月20日までに農業技術防除センター及び各試験研究機関に持ち込まれ、同期間中に診断が完了した病害虫の診断結果は次のとおりです。

	作物名	依頼件数	診断結果(件数)
普通作	計	0	
果樹	カキ	1	カキノヒメヨコバイ(1)
	ブドウ	1	生理障害等(1)
	ミカン	1	灰色かび病(1)
	計	3	
野菜	アスパラガス	7	立枯病(1)、疫病(3)、軟腐病(1)、生理障害等(2)
	イチゴ	20	炭疽病(7)、萎黄病(6)、疫病と萎凋病の混発(1)、アザミウマ類による食害(1)、生理障害等(4)、薬害(1)
	ニガウリ	1	生理障害等(1)
	小ネギ	2	萎凋病(2)
	ネギ	1	べと病(1)
	タマネギ	4	灰色腐敗病(1)、白絹病(1)、りん片腐敗病(1)、生理障害等(1)
	ジャガイモ	1	疫病(1)
	ショウガ	1	生理障害等(1)
	トマト	2	白絹病(1)、生理障害等(1)
	ナス	3	半身萎凋病(1)、ハダニ類による食害(1)、生理障害等(1)
	パプリカ	2	斑点病(1)、生理障害等(1)
	ピーマン	1	白絹病(1)
	ハウレンソウ	2	萎凋病(1)、生理障害等(1)
	リーフレタス	1	生理障害等(1)
	レンコン	1	生理障害等(1)
	計	49	
花き	キク	3	えそ病(1)、茎枯病(1)、生理障害等(1)
	トルコギキョウ	3	青枯病(1)、生理障害等(2)
	ホオズキ	2	生理障害等(2)
	シクラメン	4	炭疽病(1)、萎凋病(1)、生理障害等(2)
	アルストロメリア	1	ウイルス病(1)
	計	13	

合計： 23 作物

65 件

内訳	糸状菌による病害	: 33件
	細菌による病害	: 3件
	ウイルス・ウイロイドによる病害	: 2件
	害虫類	: 3件
	線虫類	: 0件
	生理障害等	: 24件
	合計	65件

6. 全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に6月25日～7月25日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

発信元	内容	日付	作物	病害虫名
富山県	注意報	2014/06/26	水稲	斑点米カメムシ類
北海道	注意報	2014/06/27	各種作物	ヨトウガ
埼玉県	注意報	2014/06/30	水稲	斑点米カメムシ類
香川県	注意報	2014/06/30	いちご	うどんこ病
福島県	注意報	2014/06/30	水稲	斑点米カメムシ類
岩手県	注意報	2014/06/30	りんご	ハダニ類（ナミハダニ）
福井県	注意報	2014/07/01	水稲	斑点米カメムシ類
山形県	注意報	2014/07/02	水稲	斑点米カメムシ類
静岡県	注意報	2014/07/03	水稲	斑点米カメムシ類
北海道	注意報	2014/07/03	水稲、小麦、とうもろこし、イネ牧草	アワヨトウ
京都府	注意報	2014/07/04	水稲	斑点米カメムシ類
北海道	注意報	2014/07/04	たまねぎ	ネギアザミウマ
宮城県	注意報	2014/07/04	水稲	斑点米カメムシ類
三重県	注意報	2014/07/07	水稲	斑点米カメムシ類
滋賀県	注意報	2014/07/08	果樹	果樹カメムシ類
鳥取県	注意報	2014/07/09	果樹共通	果樹カメムシ類
石川県	注意報	2014/07/09	水稲	斑点米カメムシ類
千葉県	注意報	2014/07/09	水稲	斑点米カメムシ類
秋田県	注意報	2014/07/10	水稲	斑点米カメムシ類
山口県	注意報	2014/07/11	水稲	斑点米カメムシ類
岩手県	注意報	2014/07/14	水稲	斑点米カメムシ類
鳥取県	注意報	2014/07/15	水稲	いもち病
長崎県	注意報	2014/07/15	いちご	炭疽病
愛知県	注意報	2014/07/16	水稲	斑点米カメムシ類
愛知県	注意報	2014/07/16	キク、大豆	オオタバコガ
新潟県	注意報	2014/07/16	水稲	斑点米カメムシ類
富山県	注意報	2014/07/17	水稲	斑点米カメムシ類（2回目）
岐阜県	注意報	2014/07/17	水稲	斑点米カメムシ類
北海道	注意報	2014/07/18	水稲	アカヒゲホソミドリカスミカメ
宮城県	注意報	2014/07/18	なし	黒星病
青森県	注意報	2014/07/23	水稲	斑点米カメムシ類
滋賀県	注意報	2014/07/24	水稲	斑点米カメムシ類
岐阜県	注意報	2014/07/23	果樹類	果樹カメムシ類
山形県	注意報	2014/07/24	水稲	斑点米カメムシ類（2回目）
島根県	注意報	2014/07/24	水稲	斑点米カメムシ類
島根県	注意報	2014/07/24	果樹	果樹カメムシ類

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

発信元	日付	作物	内容
山口県	2014/06/19	ハウレンソウ	ハコベハナバエ
京都府	2014/07/02	ネギ	えそ条斑病（IYSV）
愛知県	2014/07/11	ウメ	ウメ輪紋ウイルス（PPV）
栃木県	2014/07/24	トマト	トマト葉かび病レース2.9、4.9、2.5.9、4.5.9
栃木県	2014/07/24	ピーマン、ミニトマト	ピーマンえそ輪点病、トマト茎えそ病（仮称）（CSNV）

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

技術情報等（九州地方で発表されたもののみ）

発信元	日付	作物	内容
佐賀県	2014/06/27	イチゴ	うどんこ病、苗立枯病の防除対策
宮崎県	2014/07/01	イチゴ	炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類の防除対策
長崎県	2014/07/01	早期水稲	いもち病（穂いもち）の防除対策
佐賀県	2014/07/07	早期、早植え水稲	いもち病の防除対策
大分県	2014/07/08		台風の影響による病害対策
佐賀県	2014/07/14	水稲	海外飛来性害虫の発生予想パターンについて
長崎県	2014/07/15	水稲	トビイロウンカ、コブノメイガ
長崎県	2014/07/15	いちご（育苗床）	うどんこ病の防除対策について
熊本県	2014/07/17	水稲	海外飛来性害虫の飛来状況について
佐賀県	2014/07/18	水稲	海外飛来性害虫の発生予想パターンについて（第2報）
鹿児島県	2014/07/18	普通期水稲	海外飛来性害虫の発生状況
福岡県	2014/07/18	水稲	海外飛来性害虫、葉いもちの発生状況
福岡県	2014/07/24	果樹	果樹カメムシ類の果樹園への飛来について

注：太字は佐賀県が発表したものを示す

6月1日～8月31日の3か月間は農薬危害防止運動期間です。
農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

農薬散布後の止水期間は7日間です。散布後7日間は落水やかけ流しをしないようにしましょう。

農薬を使用する前に、必ずラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法を必ず確認しましょう。

(農林水産省HPより)